

令和4年度 学校評価アンケート 結果、現状分析及び今後の課題

よくあてはまる 4点
 どちらかといえばあてはまる 3点
 どちらかというあてはまらない 2点
 あてはまらない 1点

A : 4.0~3.5 B : 3.4~2.9 C : 2.8~2.3
 D : 2.2~1.7 E : 1.6~1.0

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	担当	現状分析	今後の取組み・改善策
組織運営	学校運営全般	ニーズに応える教育	教	本校は、生徒・保護者の期待やニーズに応える教育活動を行っている。	3.4	B	教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べいずれも平均は上がっている。保護者からの満足度は高いが、教職員の意識としては生徒や保護者の期待には必ずしも応えられていないと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に、本校のスクールミッションやスクールポリシーへの理解を深めてもらい、教職員はそれに沿った形で教育活動を進めることで成果を上げていきたい。
			保	姫路東高校に入学させてよかった。	3.6	A			
情報提供	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	教	ホームページや年次通信等を通じて、家庭や地域に情報を発信している。	3.5	A	教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べいずれも平均は上がっている。学校としては工夫しながら情報発信を増やしているが、保護者の要望にはまだまだ応えられていないのが現状である。今以上の情報発信は、時間的に難しい部分があることも確かである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は受け取る側のニーズに応える必要がある。保護者にとってどういう情報が足りないのかを確認し、それに応える形で新たな情報発信に取り組んでいきたい。
			保	本校は、ホームページや年次通信などを通して、さまざまな情報を提供している	3.0	B			
キャリア教育	進路指導	キャリア教育の推進	教	本校は、キャリア教育（職業ガイダンス・企業訪問など）が充実している。	3.6	A	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・職業ガイダンスセミナーや関西・関東企業訪問を経験し、多様な職業の種類や仕事の内容を学び、職業観・勤労観を深め、働くことの意義や職業的な視野をひろげている。 ・進路講演会・モチベーションアップセミナーの実施、進路情報誌の配布・説明等を通じ、志望大学・学部選択の留意点や最新の入試動向など大学受験に必要な情報を得る機会を与え、進路選択を考えるきっかけをつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業ガイダンスセミナーや関西・関東企業訪問については、実態(社会の変化・ニーズ)に即した講座を設定し、社会の中で仕事を続けながら生きていくことの意味について考えるきっかけとする。 ・模試成績を分析し、各年次に迅速に反映させ、生徒一人一人の進路実現に向けて、教科指導・面談等に活かせるようにする。 ・進路通信なども利用しながら、個々の大学の最新入試情報や過年度の入試結果の分析資料を積極的に提供していき、自ら進路選択ができる素地を作れるようにする。
			保	本校は、キャリア教育（職業ガイダンス・企業訪問など）が充実している。	3.4	B			
		教	本校は、将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されており、生徒の進路希望に応じた指導を行っている。	3.1	B				
		保	本校は、将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されており、生徒の進路希望に応じた指導を行っている。	3.2	B				
生徒指導	生徒指導	ハラスメント対策(いじめ防止)	教	本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.3	B	生徒部	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の「いじめに関する生徒調査」はもちろん、日々の生徒観察や教職員間の情報共有もよくなされており、予防的な対応が効果的に行われている。 ・各行事の実施については、社会全体の感染症対策の流れを読み、感染予防対策を継続しながら、無理のない内容で実施することができ、生徒の充実感、達成感の高まりを感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策がパターン化しないように配慮するとともに、その取り組みや状況の情報発信についての工夫をする。 ・SNS等の普及に加え、感染症予防としての「密の回避」による人間関係の希薄さが一因での人間関係に不安を抱える生徒への声かけを継続させる。 ・行事については、結果のみならず経過も適切に評価し、充実感や達成感をより強く感じることができるよう自主・自発的な態度の育成に取り組む。失敗についても適切な評価が必要。
			保	本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	3.2	B			
		教	本校は、学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.2	B				
		保	本校は、学校行事の内容が充実しており、学校生活を豊かにしている。	3.3	B				
地域連携	特別活動	地域に奉仕する心の育成	教	本校は、地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	2.9	B	生徒部	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動については新型コロナによる制約がまだあるが、姫路城の「お城清掃」や校内の緑化ボランティアなどは継続できた。加えて、県や市主催のイベントへのボランティア参加が再開できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献やボランティアについてはこれまでの実績に加え、主体的に考え判断し行動できる能力を育成する絶好の機会ととらえ、身近に参加できる活動を紹介するなど、他の活動や行事とのバランスのとれた取り組みを探っていく。
			保	本校は、地域貢献活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域に奉仕する心を育成している。	3.1	B			
		教	本校は、生徒会行事の運営に関して、生徒会を中心にして、生徒が積極的にかかわる機会をつくっている。	3.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事については感染症対策を念頭に生徒会を中心に様々な工夫をして取り組むことができていた。それらの取り組みについて、制限付きではあるが、実際に保護者に観ていただけるように対応できた。 			
保	本校は、生徒会行事の運営に関して、生徒会を中心にして、生徒が積極的にかかわっている。	3.3	B						

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	担当	現状分析	今後の取組み・改善策	
教育課程	学習指導	個に応じた丁寧な指導と指導方法・形態の工夫	教	本校は、少人数や習熟別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の定着に努めている。	3.3	B	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・年次進行とともに、少人数開講や習熟度別授業の講座を増やし、手厚い学習指導に努めている。1年次から習熟度別授業を取り入れることができればさらに良いが、教室不足等設備面で導入できない現状がある。 ・以前より考查の得点だけで評価することないよう取り組んできたが、今年度入学生より観点別評価が導入されたことによる多角的な評価の方法を模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数開講や習熟度別授業の利点を活かし、より一人一人の個性を伸張する授業を展開する。 ・よりよい観点別評価の方法を検討し、教科間の連携を深め東高の評価法を確立する。 	
			保	本校は、少人数や習熟別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の定着に努めている。	3.2	B				
		評価方法の創意工夫	教	各科目の学習評価は適切に行われている。	3.3	B				
			保	各科目の学習評価は適切に行われている。	3.3	B				
資質向上	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	12	教	各教科。科目において学習内容や指導方法について研鑽し、授業改善や指導力向上に向けて取り組んでいる。	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で研究授業を実施し、検討会を行い研鑽に努めている。また、教科の枠を超えた研修会を開催し視野を広げ授業改善に役立てようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用を促し、効果的なタブレットの活用法等を考え、授業改善に努めていきたい。 	
保	本校の学習指導は充実しており、教員は生徒の学力向上のために熱心に指導している。	3.3	B							
特色教育	SSH事業の活用	SSH事業への取組	教	本校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を活用し、幅広い教育活動を展開している。	3.4	B	SSH推進部	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、SSH事業の柱である課題研究の目的や意義の認識は年々高まっており、1年次生徒の75%が「SSHの取組に参加して科学技術に関する学習に対する意欲が増した」と回答している。また参加してよかったと思う取組の上位には3つの年次とも「課題研究」をあげている。教員についても「学習指導要領よりも発展的な内容を重視する」、「教科や科目を越えた教員の連携を重視する」の割合が年々増加しており、「生徒の科学技術に対する興味・関心・意欲が増した」と回答した教員は73%に達している。探究活動が軌道に乗りつつあると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究活動に対する理解が進み、熱心に取り組もうとする姿勢が明確になってきたため、限られた時間の中で探究活動をどのように進めるのかといったスケジューリングの指導を進めていきたい。教員の理解は深まっているが、30%弱の教員はまだ探究活動による生徒の変化を実感できないため、今後も教員研修などを充実させ、社会で活躍できる人材の育成に向かって学校全体で取り組んでいく。探究活動の成果が形となって現れるまでには時間がかかるが、課題を改善しながら進めていきたい。 	
			保	本校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を活用し、幅広い教育活動を展開している。	3.4	B				
	課題研究	問題解決型学習の展開	教	本校は、生徒が探究活動に取り組むことで、探究活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める教育を行っている。	3.2	B				
			保	本校は、生徒が探究活動に取り組むことで、探究活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める教育を行っている。	3.4	B				
安全管理	防災教育	防災危機意識の向上	15	教	学校は、防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.2	B	総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による火災発生、水害を想定した訓練に加え、兵庫県津波一斉避難訓練に参加した。 ・ハザードマップを使って実際の避難経路や避難先を確認するなど、事前事後指導を通じて防災や安全を考えるきっかけになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「この質問についてはよくわからない」という回答が多いことから、本校での防災教育が、家庭や地域と連携したものになるような実施方法を検討したい。
保	学校は、防災避難訓練等を計画的に実施し、生徒の防災と安全に対する意識を高めている。	3.2	B							
保健管理	保健・安全教育	実践的な保健・安全教育への取組	教	学校は、日常的に感染症予防に努め、衛生的で、安心で安全な学校づくりをめざしている。	3.5	A	保健担当	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策としては、昨年と同様に朝の健康観察、手洗い、常時換気を徹底した。 ・清掃時のアルコール消毒や、行事ごとの感染症対策も昨年から引き続き継続しており、感染状況を見ながらの対応を今後も継続していきたい。 ・行事などに参加していただいた保護者には本校の対策は理解していただいていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症法の分類が変わるが、学校医と相談しつつ今後も状況に応じた感染症対策をとりたい。 ・常時アップデートされた情報を的確に把握し、職員・保護者間で共有しながら安心で安全な学校づくりを目指したい。 ・コロナ禍が続くことで、感染症対策への意識が下がってしまうことの無いよう、呼びかけを継続していきたい。 	
			保	学校は、日常的に感染症予防に努め、衛生的で、安心で安全な学校づくりをめざしている。	3.2	B				

領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	平均	評価	担当	現状分析	今後の取組み・改善策	
人権教育	人権教育	人権教育の計画的推進	17	教 本校は、教育活動を通じて命や人権を大切に育てており、生徒は安心・安全な学校生活を過ごすことができる。	3.1	B	人権担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に取り組む実践力を育成するという目標のもと、人権教育を進めていった。1年次では人権意識の啓発、2年次では他者を認める態度の育成、3年次では人権意識の高揚をテーマに、各年次でLHRを行った。 ・ 生徒は学校行事やボランティア活動などを通して、自他を思いやる心を育てているように思える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマを「共生社会の実現に主体的に取り組む実践力の育成」とし、文部科学省の人権教育研究推進事業の申請を行っている。「アイヌの人々、子ども、女性、外国人」という人権課題解決に向け、人権教育委員会を中心に組織的、計画的に取り組んでいく。 ・ 体験的、協働的な学習手法を用い、自己や他者理解を深め、多様性を認め合う態度を培っていきたい。 	
			保 本校は、教育活動を通じて命や人権を大切に育てており、生徒は安心・安全な学校生活を過ごすことができる。	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・教員ともにICT機器を使わされるのではなく、自ら活用法を考え、自ら使っていくものとした。他年次でも探究活動や各授業でタブレットの活用をしている。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・教員ともにICT機器を使わされるのではなく、自ら活用法を考え、自ら使っていくものとした。他年次でも探究活動や各授業でタブレットの活用をしている。 ・ 通信環境の不具合を原因を精査し、解消していく。
教育環境	ICT教育の導入	ICT機器の活用	18	教 本校は、ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化を図っている。	3.4	B	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ BYODにより1年次で全生徒がタブレットを所持し、ICT機器がより身近になり授業の幅が広がった。他年次でも探究活動や各授業でタブレットの活用をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・教員ともにICT機器を使わされるのではなく、自ら活用法を考え、自ら使っていくものとした。他年次でも探究活動や各授業でタブレットの活用をしている。 ・ 通信環境の不具合を原因を精査し、解消していく。 	
			保 本校は、ICT機器を活用し、授業内容の充実や学習の効率化が図られている。	3.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西オーストラリア州パース近郊のKolbe Catholic Collegeの生徒と定期的にオンライン交流会を開催した。実際に英語を使って、同年代の外国人とコミュニケーションをとることで、英語学習の意欲を高めた。 ・ アメリカのBloomington High School Northの生徒と学校紹介や自己紹介の動画交流を行った。また継続的にお互いの学校生活や趣味などについて交流を行い、英語力の向上に努めた。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン交流会や動画交流を継続的にを行い、生徒が語学力やコミュニケーション能力を育成できる機会を与えていく。 ・ 異なる文化や価値観を理解し、国際社会で主体的に生きる力を伸ばさせるための機会を与えていく。
国際理解	国際理解教育	国際交流の推進	19	教 本校は、国際交流の機会を提供し、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	3.2	B	国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西オーストラリア州パース近郊のKolbe Catholic Collegeの生徒と定期的にオンライン交流会を開催した。実際に英語を使って、同年代の外国人とコミュニケーションをとることで、英語学習の意欲を高めた。 ・ アメリカのBloomington High School Northの生徒と学校紹介や自己紹介の動画交流を行った。また継続的にお互いの学校生活や趣味などについて交流を行い、英語力の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン交流会や動画交流を継続的にを行い、生徒が語学力やコミュニケーション能力を育成できる機会を与えていく。 ・ 異なる文化や価値観を理解し、国際社会で主体的に生きる力を伸ばさせるための機会を与えていく。 	
			保 本校は、国際交流の機会を提供し、広い視野で物事を捉えられる生徒を育成している。	2.9	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西オーストラリア州パース近郊のKolbe Catholic Collegeの生徒と定期的にオンライン交流会を開催した。実際に英語を使って、同年代の外国人とコミュニケーションをとることで、英語学習の意欲を高めた。 ・ アメリカのBloomington High School Northの生徒と学校紹介や自己紹介の動画交流を行った。また継続的にお互いの学校生活や趣味などについて交流を行い、英語力の向上に努めた。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン交流会や動画交流を継続的にを行い、生徒が語学力やコミュニケーション能力を育成できる機会を与えていく。 ・ 異なる文化や価値観を理解し、国際社会で主体的に生きる力を伸ばさせるための機会を与えていく。
環境整備	環境整備	環境整備・施設管理維持	20	教 学校の施設設備の管理がなされており、学習に適した環境が整備に努めている。	3.1	B	事務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間照明のLED化、老朽化した教室床の改修等、目に見える形で整備が進んだことが、昨年度評価から0.1ポイント上がったことにつながったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長年の懸案であった屋外トイレの洋式化、特別教室の空調整備等、直接生徒が日々使用する環境を改善した。 	
			保 学校の施設設備の管理がなされており、学習に適した環境が整備されている。	3.1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間照明のLED化、老朽化した教室床の改修等、目に見える形で整備が進んだことが、昨年度評価から0.1ポイント上がったことにつながったと考えられる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 長年の懸案であった屋外トイレの洋式化、特別教室の空調整備等、直接生徒が日々使用する環境を改善した。
外部対応	案内・対応	窓口・電話対応	21	教 来訪者への案内、外部からの電話に対し、丁寧でわかりやすい対応をしている。	3.4	B	事務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口対応については、昨年度と同様にB評価3.4であるが、A評価となるよう努めたい。 ・ 就学支援金はマイナンバーを利用することから、学校側も家計状況が判らないため、説明に苦慮することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場に立った接遇に努め、できるだけ平易でわかりやすい表現に努める。 ・ 就学支援金等各種手続きの相談は丁寧に聞き取るよう努め、ワンストップ化を図る。 	
			保 窓口や電話の対応は、丁寧でわかりやすい。	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学支援金はマイナンバーを利用することから、学校側も家計状況が判らないため、説明に苦慮することがある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の立場に立った接遇に努め、できるだけ平易でわかりやすい表現に努める。 ・ 就学支援金等各種手続きの相談は丁寧に聞き取るよう努め、ワンストップ化を図る。
		22	教 就学支援金や各種奨学金等の案内や、窓口手続きの説明は、わかりやすく丁寧に対応している。	3.2	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学支援金はマイナンバーを利用することから、学校側も家計状況が判らないため、説明に苦慮することがある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学支援金等各種手続きの相談は丁寧に聞き取るよう努め、ワンストップ化を図る。
			保 就学支援金や各種奨学金等の案内や窓口手続きの説明はわかりやすく、丁寧である。	3.1	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学支援金はマイナンバーを利用することから、学校側も家計状況が判らないため、説明に苦慮することがある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学支援金等各種手続きの相談は丁寧に聞き取るよう努め、ワンストップ化を図る。
組織	学校運営全般	校内組織の連携(教員のみ)	1	教 各分掌が重点目標を掲げ、機能的な組織の編成や部署間の連携を図りながら、教職員が協働して目標を達成できるよう努めている。	3.2	B	教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各分掌の重点目標達成に向け、部長や主任を中心に、部内で連携を取りながら進められている。部署間の連携が足りないこと、一部の職員の負担が多いことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部内ではベテランと若手の協働を進め、部署間の連携を大切にしながら、学校全体が組織として機能していけるようにする。 	